

猿倉岳で倒木数十本

突風か、入山注意呼びかけ

南八甲田



強風で折れ飛ばされたとみられる直径約40センチのアオモリトドマツ=7日、猿倉岳東斜面(久末正明さん提供)



強風で折れたとみられる直径70センチほどのアオモリトドマツ=7日、猿倉岳東方の矢櫃滝手前(久末正明さん提供)

十和田八幡平国立公園・南八甲田地域の猿倉岳(標高1353.7メートル)東斜面で、アオモリトドマツやブナなどの木が数十本、折れたり倒伏したりし、幹や枝が散乱していることが9日

までに分かった。同斜面ではこれまでも同様の被害が確認されており、局地的な突風が原因とみられる。春スキーや登山のルートになっっており、現場を確認した関係者は入山者に注意を呼びかけている。

弘前大学大学院理工学研究科の石田祐宣准教授(51

歳)「気象学」と十和田市の自然保護団体「八甲田・十和田を愛する会」の久末正明代表(69歳)らが7日、八甲市内の男性からの情報を基に

確認した。男性は3日に倒木を発見した。

両氏によると、木はほぼ西から東に向かってなぎ倒されるような感じで折れ、標高約1140メートル地点から下方の矢櫃滝(同1061メートル)まで約400メートル四方の範囲で折れたり飛散したりしていた。

折れた木は太いものでアオモリトドマツもブナも幹の直径が70センチほど。直径約20センチ、長さ約5メートルのアオモリトドマツが60センチほど飛ばされていた例もあった。幹の一部が雪に埋まっているものもあり、今冬に少なくとも2回は突風被害があったとみられる。

猿倉岳東斜面では1994〜2008年に同様の被害が7、8回確認されている。原因ははっきりしていないが、02〜06年の6〜10月に現場の気象観測をした石田准教授は、強風が山を

越えた時に風下側に空気の上下の波がでる「山岳波」が原因ではないかと推定。今回も風速は50メートルほどあったとみられており、「西風で暴風警報が出ている時間帯や低気圧が現場付近の北側を通るときは要注意」と指摘する。

久末代表は「限定的な場所でも繰り返して起きている。原因を特定するため行政による専門的な調査はできないものか」と話した。(館花光秀)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp